



ごほんぞん  
**ご本尊**  
アフターケア通信

**4**  
月号

花まつり  
お釈迦さまの誕生日

コラム

しょうごん  
華やかなお荘厳

ぶっか  
仏花

仏花はお内仏になくてはならないお荘厳（お飾り）のひとつです。その目的は、ただ単にきらびやかにかざることだけではありません。色とりどりの花が、それぞれに生き生きと咲いている阿弥陀仏の浄土を表しています。

また、華やかな姿と同時に、生あるものが死にゆくという事実を私たちに示してくれています。ですから仏花には生花を用い、造花は用いません。そして、仏さまに向けるのではなく、私たちのほうに向けて備えます。

花瓶には四季折々の木花・草花などをとりまぜて挿します。トゲのある花やツルに咲く花、臭気のある花は避けましょう。



はなびら  
表紙イラスト「絶」

…大きな法要の時に、僧侶が撒く紙製の花びら。



今月の門徒さん

「皆で祝う花まつり」

谷川 徹三さん（長崎組 光明寺）

光明寺では、1995年ごろから園児や学童、地域の人たちが参加しやすいよう、4月29日（祝日）に花まつりを行っています。

親子の白象や花車をみんなで引いて町を練り歩き、誕生仏（お釈迦さまの誕生されたお姿の仏像）に甘茶をかけて、お祝いします。その後、本堂でお齋をいただき、親睦を深めています。

また、子どもたちが風船に、手紙を結んで空へ飛ばします。それを受け取った人から返事が届いた時の、子どもたちの緊張した面持ちや笑顔を見ていると、大人の私たちまで幸せな気持ちになります。



花まつりも、クリスマスのように、多くの人にもっと身近に感じてもらいたいですね。

kyushu-kyoku

九州教区



発行：真宗大谷派 九州教区教化委員会  
〒830-0038 福岡県久留米市西町 540-1 TEL.0942-32-3056

# 花まつり



## お釈迦さまの誕生日

「花まつり」は4月8日のお釈迦さまのご誕生を祝って行われる仏事で、「灌仏会」や「降誕会」とも言われます。

お釈迦さまは今から2500年ほど前、インドの北部、カピラ城のストドーナ王とマヤー夫人の子としてお生まれになりました。

ある夜、マヤー夫人は体の中に、白い象が入る夢を見て懐妊されます。

出産のため故郷へ帰る途中、ルンビニーという花園で休憩をされ、美しいアシヨーカーの木の花を折ろうと手を伸ばした際、右脇からお釈迦さまがお生まれになりました。この時天人が舞い降りて、甘露の雨を降らせ、花びらを撒き、あたりに香気が漂ったと伝えられています。

## 幸せって何だろう

お釈迦さまはお生まれになるとすぐに、七歩歩いて天と地を指差して、「天上天下唯我独尊」(天上天下に、ただ我ひとりにして尊し)と声をあげられました。なんとも不思議な話ですが、これは一体何を意味しているのでしょうか。

お釈迦さまは「世界中で一番偉いのは私だ」と言っているのではありません。誰とも代わることのできません。

い、かけがえのないのちが与えられていると言っているのです。「七歩」は六道(迷いの世界)を超えたことを意味しています。

誰もが皆、後悔のない人生にしたいと願っています。しかしどうすればそうなるのでしょうか。お金持ちになること、有名になること、競争に勝って偉くなること、それとも人の役に立つことでしょうか。



## 本当に大切なこと

人は皆、幸せを願い、思い描いた理想に近づこうと努力します。しかし実際は、思い通りにならず、イライラしたり、他人と比べて情けなくなったりして満足することができず、なかには生きる望みをなくしてしまう人もいます。

お釈迦さまはそんな私たちに「あなたとは誰とも比べる必要のない尊い存在

なのですよ」と呼びかけてくださっています。この声が聞こえなければ、勝ったか負けたか、得をしたか損をしたか、優れているか劣っているかというものさしだけで自分を計り、虚しい一生を過ごしてしまふことになります。

お釈迦さまの誕生によって、何が本当に大切なことなのか、はじめて明らか

になったのです。そのお釈迦さまの教えを聞き、ご誕生を祝う仏事が花まつりなのです。

